



慢性疾患をもって働くために

今から準備できることを一緒に考えよう！

令和3年11月13日(土) 14時～15時、中学生以上の慢性疾患をお持ちの方とそのご家族を対象に、ZOOMを用いたオンライン形式で行いました。

参加者は17名(うち支援者7名)でした。



講演内容

1 先輩の立場から「病気と歩む道」

NPO法人にこスマ九州理事・事務局長 井本圭祐氏

中学2年の時に急性リンパ性白血病を発症し約7か月の入院と約3年間の外来治療を受けられました。

ご自身の治療中から現在に至るまでの経験や思いから、自分の病気・現在の状況を知ることの重要性、就労するに当たり相談できる場所・人がいること、病気があっても自分のやりたいことがやれる無限の可能性のあることを伝えてくださいました。

2 就労支援の立場から「働くために必要なこと」

ハローワーク大分 難病患者就職サポーター 大井彰子氏

難病相談支援センターと連携した就労支援をしていること、はたらくためにサポートが必要なわけ、仕事をする上での健康管理と企業側に何をどこまで誰に伝えるか、支援者と相談しながら「自分で」伝えることの必要性について話してくださいました。

アンケート結果より

○自分の病気、今の治療状況や体調を自分自身が充分理解するということが大事なんだと切実に思いました。とても参考になりました。

○体調を考慮するとどのような仕事に就いたらよいのか、病気を抱えて雇用してくれるところがあるのか心配していたが、お話を聞き就職活動の際相談できる窓口があることを知りとても参考になりました。